

## 利尻島のウミネコ *Larus crossirostris* コロニーの性比について

小杉和樹

〒 097-0401 利尻町杓形字富士見町 利尻島自然情報センター

### Sex ratio of Black-tailed Gull Colony in Rishiri Island

Kazuki Kosugi

Informative center for natural environment of Rishiri, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

ウミネココロニーの拡大による人間社会への生活被害対策として行われているウミネコとオオセグロカモメ (*Larus schistisagus*) の有害鳥獣駆除が本年 (1998 年) も行われた。本年は北海道宗谷支庁が地元市町村、研究者、関係者の代表を委員とする「ウミネコ等被害対策検討委員会」を組織し、野生生物の保護と被害対策を講じるために、被害実態とウミネコ及びそのコロニーの基礎調査も行なった。さらに駆除された個体は、北海道大学、北海道海鳥センターなどの研究機関で各種調査に用いられた。この際、外部計測値と性別の報告をしていただき、利尻島自然情報センターが前年 (1997 年) から継続している駆除個体の胃の内容物と外部計測値、性別の調査結果と併せて、利尻島西部でコロニーを形成するウミネコの性比を調査したので報告する。

駆除は 6 月 14 日から 6 月 19 日までの午前 6 時から 7 時、午前 12 時から午後 1 時、午後 2 時から 3 時、午後 3 時から 4 時、午後 4 時から 5 時までに区分して行った。駆除数は前年と同数のウミネコ 900 羽、オオセグロカモメ 100 羽であった。

駆除個体のうち 555 個体が調査され、雌雄の鑑定をできたのが 543 個体、不明が 12 個体あった。雌雄の結果は表 1 のとおりであり、雌雄の割合は、

オス 58.7%、メス 41.3% であり、構成比はほぼ 6 対 4 の割合であった。なお、1997 年の時の割合も付記した。これによる性比 (メス 100 羽に対するオスの比) は 1.42 であった。表 2 は時間帯によるものであるが、駆除時間の記録があったのが 312 個体であり、午前 12 時から午後 1 時までと午後 3 時から午後 5 時までがよりオスに偏っていた。不明とされた 12 個体について前年に調査した外部計測値から (小杉ほか、1998) 判断した場合、オスと思われるのが 8 個体あり、それを加えた場合はオス 334 個体、メス 233 個体、割合はオス 58.9%、メス 41.1% で構成はほぼ 6 対 4 であり、性比は 1.43 であった。

クロワカモメでは最初に生まれた卵はオスであることが多く、二番目はメスになりやすく、三番目はいずれの性でもありうる (ロバート・トリバース、1991) ということが知られており、卵の生まれる順番と巣立ちの成功とが正の相関関係にあるとすれば、コロニーの性比は 1 : 1 よりも高いものと考えられる。

今後、コロニーの管理や保護の方法として、無作為な成鳥の駆除ではなく、二番目以降に産卵された卵を抜き取るなど、人為的にオスの割合を調整することにより、成鳥羽数の増加やコロニーの拡大を抑制できるのではないだろうか。また、この方法を長期的に行うことによって、コロニーの年齢構成も適正に調

表1 ウミネココロニーの性比

Table 1. Sex ratio of Black-tailed Gull Colony

Year	n	Male	Female	Unknown	Male %	Female %
1998	567	326	229	12	58.7	41.3
1997	77	49	22	6	69.0	31.0

表2 時間帯によるウミネココロニーの性比

Table 2. Sex ratio of captured birds at each shooting time

Time	n	Male	Female	Unknown	Male %	Female %
6:00	125	68	52	5	56.7	43.3
12:00	20	13	6	1	68.4	31.6
14:00	105	57	45	3	55.9	44.1
15:00	20	15	5	0	75.0	25.0
16:00	39	23	13	3	63.9	36.1

整できるものとも思われるので、今後のコロニーにおける成鳥及び雛の性比を調査する必要があるであろう。

おわりに、それぞれの調査研究で多忙にも関わらず記録を報告していただいた小城春雄教授(北海道水産学部)、中田聖子氏(北海道大学院)、小野宏治研究員(北海道海鳥センター)、佐藤美穂子氏(北海道海鳥センター)、帖地美千代氏(北海道大学農学部応用動物学講座)、渡部真文氏(愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻環境科学研究室)

の方々和利尻島自然情報センターの諸調査に協力いただいた佐藤雅彦学芸員(利尻町立博物館)、坂本里恵氏(日本野鳥の会道北支部)、吉村正志氏、吉村真理子氏の方々に心よりお礼を申し上げる。

#### 引用文献

- 小杉和樹ほか、1998. ウミネコの外部計測値と胃内容物について. 利尻研究 17号.  
 ロバート・トリバース、1991. 生物の社会進化. 東京、産業図書.